

# NJ 素流協 News

平成25年5月31日 第101号

平成25年5月31日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## ノースジャパン素材流通協同組合

### 第10回通常総会開催

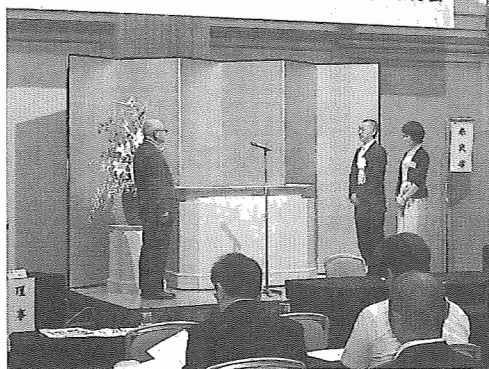
5月23日(火)、NJ素流協第10回通常総会がホテルメトロポリタ盛岡ニューウイング(盛岡市)において開催された。

組合員総数113名のうち本人出席34名、委任状出席18名、書面議決書提出45名、計97名の出席が確認され、横澤孝一副理事長が開会の辞を述べた。

下山裕司理事長は冒頭、「今年NJ素流協は設立から満10年を迎え、11年目に入った。また『NJ素流協ニュース』も100号の節目を迎えた。この間順調に発展、充実してきたのは組合員の皆さんのご協力と支援の賜物である。昨年度の木材取扱実績は21万m<sup>3</sup>で、前年度実績比で130%となった。今年度の計画量は前年度実績比122%の25万8千m<sup>3</sup>とし、新たな販路として木質バイオマス利用にも前向きに取り組むこととしている。社会的、

経済的環境は大きく変化している。木材自給率50%達成の目標のもと、この流れに棹差して乗り切ってきたい」と挨拶した。

ノースジャパン素材流通協同組合第10回通常総会



続いて10周年を記念して、最近林業界において栄えある表彰を受けた関係者ご夫妻を紹介し、その功績を傍らで支えた奥様に対し、理事長より感謝状と記念品が贈られた。表彰された方々は次の通り。  
・有限会社丸大県北農林代表取締役 大粒来仁孝様、宏美様 「意欲

ある担い手賞(林業部門)」「いわて農林水産躍進大会、平成24年12月) 株式会社昭林代表取締役 石川勝也様、郁子様 「林野庁長官感謝状」  
・株式会社吉本・岩泉事業所前所長 畠山信一様、信子様 「全国素材生産業協同組合連合会会長表彰状」 (以上、全国素材生産業協同組合連合会総会、平成25年5月)

続いて来賓の東北森林管理局矢部三雄局長(代理 石田祐二次長)、岩手県農林水産部東大野潤一部長(代理 菊池透林業振興課総括課長)から御祝辞を頂き、「設立以来先進的な取組みで地域材の安定供給に貢献した」とのお言葉を頂いた。続いて組合員・佐々木元氏を議長とし、議事に入った。今回提出された8議案全てについて、原案通り承認・決定された。主な議事の内容は次の通り。

▽議案第1号「平成24年事業報告書及び決算関係書類承認の件」

素材取扱総数量は、合計で21万665m<sup>3</sup>、対計画比88%、対前年比130%。流通経費支援事業の補助

もあり、県外の合板工場への出荷は、23年度と比較し3倍となった。県内の被災工場も復旧してきたが、納入量は大地震前の3割に止まっている。製材・集成材用素材等の販売は、工場側からの原木条件の変更や受入制限の影響で前年度比79%に止まった。今後、震災復興に伴うバイオマス関連施設等の建設が予定されているため、その需要が期待される。

教育及び情報提供に関する事業として、青森を含めた4地区で地区別組合員会議を開催した。経営技術研修会は、路網作設オペレーター養成研修の他、主に組合員の後継者を対象とした研修会、国内初の再生可能エネルギー電気固定価格買取制度(FIT)により運営されている福島県会津若松市の木質バイオマス発電所等の視察等を行った。合法木材供給事業では、2年に一度の組合員の合法木材供給事業者認定審査を行ったほか、組合員対象の研修会を開催した。またNJ素流協職員が、合法木材供給事業者認

定団体として研修会に参加した。利用拡大等に関する事業としては、木質バイオマス資源の有効活用の観点から、先進地域である島根県から講師を招き、「林業講演会」を開催した。

平成22年度から実施しているフォレスト再生モデル実証事業は3年目の最終年度に当たり、協力申し出のあった7組合員7箇所において、伐採から地拵えまでの作業を実施した。また、実証試験地は、岩手県が実施するカラマツコンテナ苗植栽研修会の場として提供した。

受託事業としては、岩手県の「森林整備加速化・林業再生基金事業」による流通経費支援事業の実施主体となつて事業取組みをするとともに、流通専門部会の事務局として、流通経費支援事業及び高性能林業機械等の導入についての指導等を行うとともに、協議会への出席、部会の運営・開催等を行った。その他、震災対応として、養殖筏用丸太材生産、放射性物質の影響によるしいたけ原木の取替えに対す

る原木の確保などを行った。  
▽議案第2号「平成25年度事業計画書、収支予算決定の件」

共同販売事業の計画量は、合板用素材、製材・集成材用素材、土木用素材ほか合計25万8千m<sup>3</sup>とする。内訳は別表の通り。

教育及び情報提供に関する事業のうち、研修会、見学会等については、引き続き経営技術研修会、作業路開設研修会、工場見学会等を行うほか、発電用木質バイオマスの出材に備え、木質バイオマスに関する知識と木質バイオマスの集出荷システム検討、書類管理法等、木質バイオマスについての研修会を行う。また合法木材等の制度と実務に関する研修会を行う。

利用拡大等に関する事業のうち、木質系資源の利用拡大については、固定価格買取制度の開始により、建設が予想される木質バイオマス発電所への燃料供給に対応するため、熱源用としての木質系バイオマス(C・D材)について、低コストでの供給システムと安定供給体制の

構築を進める。また植栽未済地の解消と森林の適確な維持・増進に資するため、昨年度まで実施したフォレスト再生モデル実証事業の成果を活用していく。さらに、木質資源の利活用の多様化に対応して、組合員の生産した素材を合理的、効率的に販売するため、針葉樹良質材や製材用広葉樹などの優良素材について、インターネットを活用したウェブ入札販売の取組を行う。

その他の議案として、今年度の流通手数料率、賦課金の徴収、取引金融機関の決定等が発議され、原案通り決定された。

表 平成25年度取扱計画量

区分		材積 (m <sup>3</sup> )	前年度差 (m <sup>3</sup> )
合板用材	生産によるもの	160,000	+ 11,170
	システム販売によるもの	10,000	+ 3,008
製材・集成材用素材、土木用素材、他		70,000	+ 15,157
バイオマス発電用素材		18,000	+ 18,000
合計		258,000	+ 47,335

# トピックス

## マダニに注意!

マダニは、森林や草地等に生息する比較的大型のダニで、動物や人間の皮膚に寄生し吸血する。山仕事をすうえではおなじみのダニであり、特に春から秋にかけては活動が盛んになる。

マダニは様々な感染症を媒介するが、2011年に「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を引き起こすウイルスが新たに特定され、これまでに中国・韓国・米国・日本で患者が確認されている。

国内においては、2013年1月に初めて患者が確認され、厚生労働省が過去にさかのぼって調査した結果、西日本を中心に2005年以降19名の方がSFTSに感染し、うち9名の方が死亡していることがわかった(本年5月末現在公表分)。

SFTSは、マダニに咬まれてから6日〜2週間程度の潜伏期間を経て発症し、発熱、腹痛、頭痛、筋肉痛、意識障害等の症状が現れるが、他の病気との

見分けがつきにくく、現在のところ特效薬はみつかっていない。

これまでに東北地方でSFTS感染例は報告されていないが、マダニは他にもライム病などの病原体を媒介することから、咬まれないよう十分に注意する必要がある。

マダニは、動物や人間から発せられる二酸化炭素や体温、振動等に反応して草の上などから皮膚に移り寄生する。森林や草地に入る場合は、肌の露出をできる限り少なくし、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、帽子や手袋を着用する、首にタオルを巻く等の対策が有効である。また服装はマダニを見しやすいくい明るい色のものや、マダニがつきにくい化学繊維素材のものが望ましい。

それでもマダニに咬まれてしまった場合は、無理に引き抜くとマダニの一部が皮膚内に残ったり、マダニの体液を逆流させる恐れがあるので、速やかに皮膚科で処置を受けることが重要である。またマダニに咬まれた後数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が見られた場合は医療機関で診察

を受ける必要がある。

## 林業労働災害防止月間

林業労働災害の発生は、関係者の努力により減少傾向で推移しているものの、未だに他産業と比較して発生率が著しく高い状況である(表)。

表 林業労働災害発生率(年千人率)

区分	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23
全産業	2.3	2.3	2.0	2.1	2.1
林業	29.5	29.9	30.0	28.6	27.7
鉱業	16.3	14.0	14.2	13.9	13.9
建設業	5.6	5.3	4.9	4.9	5.2
製造業	3.2	3.0	2.5	2.6	2.7
木材製造業	9.2	8.3	7.2	7.4	7.9

資料:厚生労働省(林野庁ホームページより)

注:年千人率とは、労働者千人当たり1年間に発生する死傷者数を示すもので、千人率=1年間の死傷者数÷1年間の平均労働者数×1,000であらわされる。

林業における平成23年度の死亡災害発生人数は38人で、作業別に見ると、伐木作業中が21人(55%)と最も多く、次

いで集材作業中5人(13%)、造材作業中が4人(11%)となっている(図)。

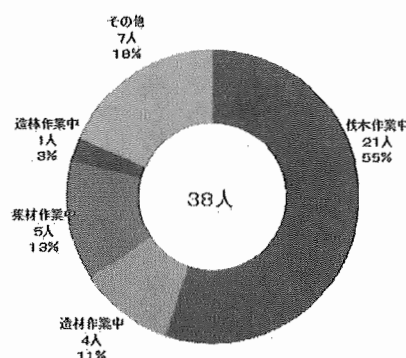


図 作業別死亡災害発生状況

資料:厚生労働省(林野庁ホームページより)

そこで林業・木材製造業労働災害防止協会においては、7月1日から7月31日までの1か月間を「林業労働災害防止月間」に設定し、「怖いのは慣れた作業と その油断」をスローガンに掲げ、事業者と労働者の労働安全意識の高揚を図ることとしている。

林業労働災害の多くは、遵守すべき安全確保のための基本的な作業手順を励行していないことが原因となっており、同種作業・類似災害の発生を繰り返す傾向にある。「林業リスクマネジメント」、「KY(危険予知)活動」を取り入れるなど、今一度対策を徹底することが求められている。

# 今月の名木・巨木 13

(岩泉町)

岩泉町

## 早坂高原のシナノキ

所在：下閉伊郡岩泉町早坂高原



推定樹齢500年とされ、天然記念物等には指定されていないものの、圧倒的な存在感を示す巨木である。

シナノキは、北海道から九州までの山地に分布するアオイ科(分類手法によってはシナノキ科)シナノキ属の日本固有種で、「科の木」と表記される。長野県の古名「信濃」は古代「科野」と表記されたが、シナノキが多いことに由来するとの説がある。

葉はハート型で新緑の時期には鮮やかな緑色が美しく、紅葉の時期には黄色く色づく。樹皮の繊維が丈夫なことから、古くはロープや衣服の材料とされてきた。材質は柔らかく加工しやすいため、かつては割り箸、鉛筆等に利用された。現在はシナ合板として広く流通し、木質が緻密で木肌が滑らかなことから、内装材、家具材や日曜大工の材料等に利用されている。

盛岡市と岩泉町を結ぶ国道455号線の早坂トンネルを通らず旧道を進むと、盛岡市との境界となる標高916mの早坂峠を中心に、早坂高原がなだらかに広がっている。  
早坂峠から旧国道を離れて葛巻町方面に北上する道路を少し進むと、左手にひととき大きなシナノキがある。現地案内板によると、幹周り約8m、樹高約17m、

シナノキの花は6〜7月に開花し、辺りには甘い香りが漂う。蜂蜜の蜜源として知られるほか、葉や花はハーブとしても利用される。

同じシナノキ属のセイヨウボダイジュ(リンデンバウム)は、ヨーロッパでは自由の象徴とされ、シューベルトの歌曲集「冬の旅」の一曲「菩提樹」が有名である。ブツダがその木の根元で悟りを開いたとされるのはクワ科イチジク属のインドボダイジュで、全く別の種である。

早坂高原には、総延長4kmの「森林セラピーロード」として認定されている遊歩道があり、生理的・心理的リラクセス効果が実証されている。その周辺では、春はカタクリ、レンゲツツジ、夏はノハナシヨウブなどの花を眺めつつ、森林浴を楽しむことができる。

### 冗談欄 過激運動はハゲのもと？

東大医学部の研究チームが、ハゲアタマの人は心臓病になる危険性が高いとイギリスの医学誌に発表し、注目された。

禿げ方によって危険度合いが異なるそうで、額(ひたい)が広がっていくような禿げ方は大丈夫で、頭のとっぺんから河童のように禿げてくるのが最も危険なそうである。

頭が禿げると心臓病になるといわれているが、ある原因が元となって、頭が禿げるとともに心臓病にもなるということらしい。

その兆候に身に覚えがある人は気になるところである。

そもそも抜け毛は洗髪時と睡眠時に多いが、抜け毛の最大要因は毛髪の栄養状態によるようで、特に、亜鉛分が不足すると抜け毛が多くなることが判明している。

亜鉛分は口に入れてもなかなか体内に吸収されにくいものようだ。髪の毛が

亜鉛不足となるのは、亜鉛の摂取量が少ない場合と何らかの原因で毛髪まで亜鉛分が届かない場合が考えられる。

亜鉛分の多い食べ物にはカキやホタテなどの貝類だが、大震災から養殖業がまだ復興していないために、スーパーなどにあまり出しておらず、買い求めるのもままならない。

それでも何とか亜鉛分を吸収したとしても、運動など特に精液排出などの激しい運動をすると大部分が消費されてしまい、亜鉛分が毛髪まで届かず、抜け毛の原因となるらしい。

それ故、折角数少ない貝類を買い求めて食べても、激しい運動で消費してしまっただけでは元も子も無くなるので注意しなければならぬ。

とは言ってみたものの、還暦を遠い昔に迎えた者にとっては、激しい運動など縁のないことだと、気付いた次第でした。

平成 25 年 5 月 分 の 販 売 実 績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約770m<sup>3</sup>減少、カラマツが約350m<sup>3</sup>増加、アカマツが約140m<sup>3</sup>減少し、全体では約570m<sup>3</sup>減少している。昨年同月と比較すると、スギが約2,430m<sup>3</sup>増加、カラマツが約70m<sup>3</sup>減少、アカマツが約160m<sup>3</sup>減少し、全体では約2,440m<sup>3</sup>増加している。今月のシステム販売取扱量は約320m<sup>3</sup>であった。
- 2 その他(合板用以外)の出荷量は前月より約650m<sup>3</sup>減少、昨年同月より約1,410m<sup>3</sup>減少している。
- 3 今年度の年間計画量258,000m<sup>3</sup>に対する出荷量の割合(目標達成率)を16.7%とすると、今年度の全体出荷実績は、計画数量を2.4ポイント下回る結果となった。

(m<sup>3</sup>)

樹種	長級(m)	当 月 出 荷 量			今 年 度 累 計			
		合板用	そ の 他 材 用 等	計	合板用	樹 種 別 割 合 (%)	そ の 他 材 用 等	計
スギ	2.0	3,956	2,886	8,268	7,389	42.1	6,208	17,738
	4.0	1,426			4,142			
	計	5,382			11,531			
カラマツ	2.0	3,955	889	( 323 ) 6,193	7,298	37.4	1,967	( 591 ) 12,222
	4.0	1,349			2,957			
	計	( 323 ) 5,304			( 591 ) 10,255			
アカマツ	2.0	2,331	444	2,929	4,759	18.6	1,027	6,133
	4.0	155			346			
	計	2,485			5,105			
その他針葉樹		237	95	332	498	1.8	115	614
広葉樹		0	86	86	0	0.0	137	137
合計		( 323 ) 13,408	4,400	( 323 ) 17,808	( 591 ) 27,389	100.0	9,454	( 591 ) 36,843
目標達成率 (%)								14.3
計画数量								258,000

( ) はシステム販売取扱量 (内数)

落穂拾い

今年も梅雨期に入ったようだが、空梅雨ではないかという話もある。ところが九州や関西地方ではしとしと降る梅雨ではなく1日に200ミリも300ミリも降る豪雨である。近年の地球上の気候は不順で、大洪水による災害が発生するところがあれば、一方干ばつが続いて飢餓に苦しむ地域もある。世界的天候不順は、徐々に進行している地球温暖化が原因だと言う専門家もある。

わが国は一年がはつきりと四季に分かれており、これが日本人の性格や生活習慣等を形づけてきたといえるであろう。わが国は秋には必ずと言っていいほど台風が襲来し少なからぬ被害も及ぼすが、その反面落穂拾い子は、わが国土を蔽い付着した塵芥や有害物質を強い雨と風で拭い流してくれる役割も極めて重要だと考えている。この春福岡県等で問題となった中国大陸北東部から飛来した微小粒子状物質「PM2.5」が、肺がんや喘息など呼吸器系の病気を引き起こす悪質な大気汚染源といわれている。この「PM2.5」の汚染域は北京から天津、河北省、山東省、山西省などを広く覆い、中国人口の四割以上に当たる6億人に影響を及ぼしているといわれる。主な発生源は原油精製で、原油にはもともと硫黄や重金属など様々な汚染物質が含まれており、精製段階で除去する。先進国では厳しい規制によって石油に含まれる硫黄や重金属を減らし、大気汚染を抑制してきた。中国で市販されるガソリン、軽油に含まれる硫黄分は500ppmで、これに対し日本のガソリン、軽油は10ppm以下である。欧州、米国も日本と同水準かそれに近い規制を石油製品に課している。中国の規制の甘さが問題であり、この「PM2.5」が季節風に乗ってわが国に襲来するのである。

ある雑誌記事によると、中国の汚染は大気汚染だけでなく、酸性雨による河川、湖沼の汚染は以前から問題になっていたが、最近深刻化しているのは地下水で、国土資源部の調査では沿岸部百十八都市の64%で地下水が深刻な汚染にさらされているという。中国沿岸部では、工場排水の規制が年々強化されているが、排水施設工事の投資を嫌がる中国企業では捕捉されにくい地下への排水が拡大している。地下数十mから数百mに達する排水井戸を掘り、圧力をかけて地下水層へ強制排水する。結果的に地下水層の汚染が急激に進んでいる。

地下水は上水道や農業用水の水源となっており、検査の甘い地方都市や農村部では発がん物質が混入するなど上水道の汚染が進んでいる。農地では先進国では禁止された農薬の大量使用ですでに汚染が深刻化しているが、そこに地下水による農業用水の汚染が加わり、経済開発区など工場に隣接した農地から生産された農産物は「調べるのが恐ろしいほど汚染(中国農業関係者)されているという。」

空気、地下水、農産物の汚染の三点セットが中国全土に広がっている。

とどめは五月に発覚したミネラルウォーターの品質虚偽事件である。中国のトップブランド「農夫山泉」の自身が清浄で安全な水どころか、水道水にも劣るほど雑菌や有害物質が含まれていたことが明らかになった。他のミネラルウォーターも大半が基準を満たさない汚染ウォーターだった。中国に数ある問題の中でも、水が最大のリスクと認識され始めたという。

このことで思い起こすのは、素流協ニュース第71号、72号の当欄において、わが国の森林が外国資本に買われている、その大部分が中国系資本である、と書いたが、良質な水をはくむ水源林を買い求めてミネラルウォーター製造を考えているのかもしれない、と考えてしまおう。「もって銘すべし」